

3C-2

マニュアル作成支援ツールの開発 (2)
— 索引作成支援ツール —

千村 浩靖 佐古 慎二
日本電気(株) C&C情報研究所

1. はじめに

筆者らは、ドキュメンテーションエンジニアリングの研究の一環として、マニュアル作成支援ツール群: ATOM (A TTools system for Manual developing) の開発を進めている[1]。

本稿では、上記ツール群のうち、索引作成を支援するツール、ATOM-INDEXについて述べる。

2. ATOM-INDEXの特徴

ATOM-INDEXの特徴は、画面上でマニュアル本文を見ながら対話的に索引項目を指定する機能、および各ページについて索引項目が何個記載されているかを表わす索引項目分布図の提供、の2点である。

2.1 対話的なマーキング

索引作成においては、同一の単語であっても出現する文脈・位置により、索引に記載するか否かが決められる。一般に、ある単語をあるページにおいて索引項目とする場合は、

- ・その単語がそのページにおいて最初に出現する場合
- ・その単語の定義を行なっている場合
- ・その他、その単語がその文脈中重要な意味を持つ場合

などである。

本システムにおいては、作成者が画面上である単語をマークすると、以降の文章をサーチし、次に出現する位置までカーソルを次々と移動させる。作成者はその都度、前後の文脈を考慮して索引項目とするか否か(即ち、マーキングするか否か)を判断する。このようにして、画面上で対話的に索引項目を指定(マーキング)して行く。なお、すべての出現箇所においてその単語を自動的にマーキングする機能も持つ。

2.2 索引項目分布図の提供

索引を作成した後、各ページについて索引項目が何個記載されているかをチェックすることは有益で

ある。すなわち、多くの索引項目が記載されているページは情報過多ではないか、また逆に、索引項目が少ないページはいったい何が書いてあるページであったか、といったページ構成上の再検討をする機会となるからである。本システムでは、索引を作成した後、図1に示すような索引項目分布図を出力し、上記の再検討のための資料を提供する。

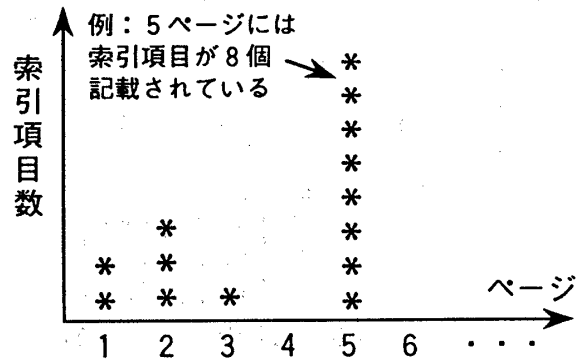


図1 索引項目分布図

3. システム概要

ATOM-INDEXは、上記で述べた機能をパソコンPC98上で実現している。図2に処理の手順を示す。

3.1 テキストデータ入力

本システムでは、ワープロ文書、OCR出力文書、および電子写植機文書が原テキストとして入力可能である。それぞれの文書ファイルに対応する変換ルーチンを呼出し、入力する。

3.2 索引項目指定

画面に表示されたテキストを見ながら索引項目をマウス操作によりマーキングして行く。一度ある単語をマーキングすると、以降、システムが自動的に次の出現位置までカーソルを移動させるので、その都度、マーキングするか否かを判断する。また、ある単語をすべての出現箇所において自動的にマーキングすることも可能である。図3にマーキング画面の例を示す。

ワープロ文書
ファイル

OCR出力
ファイル

電子写植機
文書ファイル



テキストデータ入力

索引項目指定

画面上で索引項目とする
文字列をマーキングする

索引生成

作成された索引

索引項目分布図

見直し・
修正

図2 処理手順

3.3 索引生成

マーキングがすべて終了すると、システムは索引項目を50音順にソートし索引を作成する。この時、システムの辞書に読みが登録されていない単語については、読み方を問い合わせるので、キーボードから読みを入力する。

ソートが終了すると、作成した索引を画面に表示する(図4参照)。また、作成者の指定により、ファイルへの書込み、印刷、索引項目分布図の出力を行なう。

3.4 補助機能

本システムには、上記の機能以外に下記の補助機能が用意されている。

①索引の正確さチェック：

既に索引作成済みのマニュアル本文と索引データを入力し、索引に記載されているページに本当に当該索引項目が存在するか否かを調べる。

②記載ページの漏れチェック：

既に索引作成済みのマニュアル本文と索引データを入力し、索引に記載されているページ以外の箇所に当該索引項目が存在するか否かを調べる。存在す

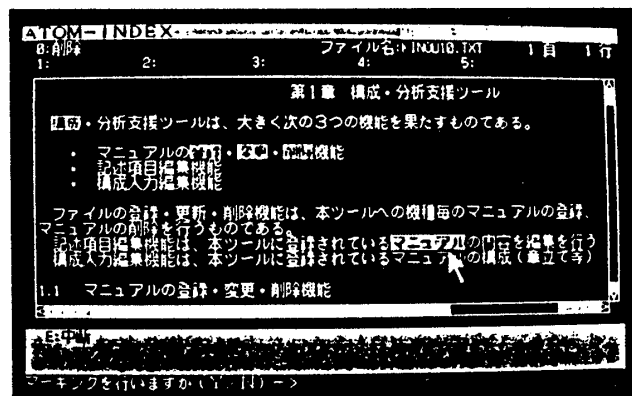


図3 マーキング画面

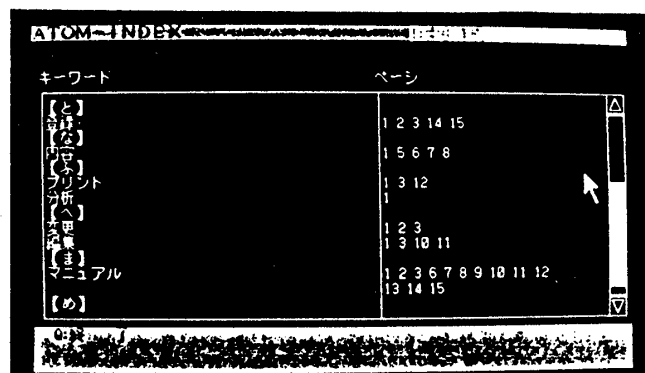


図4 作成された索引の表示画面

る場合にはそのページが表示されるので、作成者はそのページで当該索引項目をマーキングしないのが妥当かどうか、あるいは単純に見落したのか、などの検討を行なう。

4. おわりに

以上、索引作成支援ツールATOM-INDEXについて述べた。

索引作成支援は機能としては比較的単純であるが、実用面からの価値は高いと考えられる。本システムは単体として“小さなツール”としてまとめたので小回りのきくものとなっている。

本システムで作成する索引は、50音順に項目が並べられた基本的な形式であるが、これ以外に、例えば「何をどうする」的な目的別索引などの作成支援が、今後の課題である。

なお、本システムは現在、社内マニュアル作成部門において試用・評価を行なっているところである。

参考文献

- [1] 佐古・千村(1992) “マニュアル作成支援ツールの開発(1)－内容構成支援ツール－”、情報処理学会第44回全国大会、3C-1。